

令和4年度 第1回社会教育委員会議 会議録

日 時 令和4年6月28日(火)

午後2時 開会

会 場 蕨市立中央公民館 1階 集会室

出席委員／ 徳丸、山野、佐藤(一)、佐藤(由)、松崎、永井、新井、杉山 各委員
欠席委員／ 田中、前川、佐藤(則)、上野、須賀、中里、太田 各委員
議事参与者／ 松本教育長、渡部教育部長、鈴木館長(中央公民館)、岡本館長(東公民館)、
荒川館長(西公民館)、萬年館長(南公民館)、桑島館長(北町公民館)、
小川館長(下蕨公民館)、佐藤館長(図書館)、佐藤館長(歴史民俗資料館)、
黒澤館長(旭町公民館・指定管理者)
事務局／ 加納教育部次長・生涯学習スポーツ課長、
池澤生涯学習スポーツ課スポーツ推進係長、岩下生涯学習スポーツ課青少年係長、
竹田生涯学習スポーツ課生涯学習振興係長、深津生涯学習スポーツ課主事、
帯刀生涯学習スポーツ課主事

1 開 会 午後2時

2 委嘱状交付

3 あいさつ

松本 教育長

4 自己紹介

5 正副議長の選出

議長に徳丸平太郎氏、副議長に山野京子氏が選出された。

6 前回会議録の承認

承認された。

7 議 事

・報 告

(1) 生涯学習関連行事等について

【資料1】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(2) 生涯学習関連職員の人事異動について

【資料2】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(3) 令和4年度生涯学習関連予算について

【資料3】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(4) 令和4年度文化活動事業助成について

【資料4】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(5) 第8回（令和4年度）蕨市民音楽祭について

【資料5】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(6) 放課後子ども教室推進事業について

【資料6】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 事業が始まっていない東・北・中央東・塚越小学校の状況について教えてほしい。

事務局： 4校については、9月から開催することが決定している。今後は、各学校の児童にチラシを配布し周知を図るが、参加人数が多い場合は、2班に分けるなどの新型コロナウイルスへの感染対策を講じながら開催していく。

(7) わらび学校土曜塾推進事業について

【資料7】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(8) 蕨市電子図書館サービス事業者の選定結果について

【資料8】

上記のことについて、図書館長から報告があった。

委員： 質疑なし。

8 その他

委員： 公民館の現状について、全国的にコロナで苦戦した2年間からの再開後の特徴的な様子はどうか。このコロナの中で、公民館のオンライン・デジタル化という問題は、どこも非常に苦戦をしており、公民館の体制も不十分といったところもある。セキュリティの関係で、オンライン講座が事実上できないところも多かったと聞いている。その点で、蕨ではどのように協議され、あるいは可能性が探られているか、公民館の利用状況及びオンライン講座の状況についての2点を伺いたい。

中央公民館長： 公民館の再開の状況について、令和2年度前半は、施設全体が休館のような状態であった。事業も、人数や回数の制限を設けて実施するなど、活動がかなり停滞してしまった。令和3年度は、どの館も感染対策を徹底し、利用者にもマスク着用の徹底など、感染拡大防止策をお願いしながら、できるところから再開する形で行ってきた。利用人数について、コロナ前は年間約25万～27万人であったが、令和2年度は8万3千人まで落ち込んでいる。令和3年度は約13万人まで戻ってきた。例年の半分程度しか戻っていない理由は、サークル活動はできる範囲で活動が再開しているが、人が集まる活動ができていないからであると思われる。例えば、不特定多数の人が集まる講座や生涯学習フェスティバルなどといったイベントができなかった他、公民館事業への参加も不安感があった。令和4年度は、2年間活動が停滞したことに利用団体も危機感を感じており、工夫しながら、少しずつでも活動を再開できるように努めている。また、生涯学習フェスティバルは、昨年はほとんどの館で中止、もしくは展示のみといった状況であったが、今年度は、感染対策をしながら、発表や交流の面を再開する方向で、各地区で検討している。

オンライン設備の導入について、公民館では、波に乗り遅れた感じであるところもある。現状、オンライン講座を実施している館が少なく、ほとんどの館で実施できていない。国では、DXの推進や底上げの動きもあり、市でも、DX推進の情報管理担当と連携し、スマートフォン教室の展開や無線LANの導入について検討するなど、徐々に対応を進めている。DXについては、社会全体として押し進める流れになっているので、引き続き、公民館として何ができるかを検討していく。

委員： コロナは、全世代にとって困難な事態となっており、失われたものが大きいと思っている。今は動き始めているが、いつまた感染が拡大するか分から

ない状況となっており、不安やリスクと共存しないといけない社会となっている。コロナが明けたらといった考え方ではなく、コロナのリスクがあってもできることのベースを決めていくことと、公民館が最も大切にしている、コロナ生活で失われた人と人とのつながりを、何らかの形で作る必要がある。コロナ前の利用人数への回復を目指すのではなく、孤立して苦しんでいる人をサポートできる事例の参照、環境づくりに気を配ってほしい。自分の気持ちを開いて、人と語り合うことができなくなっている状態に置かれている人や、孤立してストレスが溜まっている人を、公民館がしっかり目を配って、色々な社会・福祉の委員の方と協力しながら、人と人とのつながりを作ることが公民館本来の役割ではないか。結果的に人数が増えなかったとしても、電話やミニレターでの交流など、with コロナでも、お互いの気持ちを開きながらつなげることができる方法で、新しい時代の公民館の一つの姿を作っていくことを期待したい。

委員： 施設に対しての維持管理が少し弱いのではないかと常々感じている。特に、公民館は一般の不特定多数が活動している場所なので、建物の維持管理ができてこそ、先程の発言にあるようなコミュニケーションの部分が確立できるのではないかと思う。

事務局： 関係部署と連携し、施設の充実を図ることができるよう、検討していく。

9 閉 会

山野 副議長

午後2時50分 閉会